

[成果情報名] 春作マルチ栽培のジャガイモ「アイユタカ」を増収させる種いも管理法

[要約] 一期作産種いもを使用した春作マルチ栽培のジャガイモ「アイユタカ」を増収させる植付け前の種いもの管理は常温貯蔵の場合には浴光処理を行わない方がよい。冷蔵貯蔵の場合には浴光処理を行う方がよい。

[キーワード] ジャガイモ、アイユタカ、春作マルチ栽培、種いも、貯蔵、浴光

[担当] 総合農林試験場・愛野馬鈴薯支場・育種栽培科

[連絡先] 電話0957-36-0043

[区分] いも類

[分類] 普及

[背景・ねらい]

春作マルチ栽培で一期作産種いもを使用してジャガイモ「アイユタカ」を栽培すると収量が低いことが普及上の問題となっている。低収の原因として「ニシユタカ」と同様な植付け前の種いもの管理（常温貯蔵および浴光処理）による種いもの老化が一因と考える。増収のためには、植え付けまでの種いもの貯蔵条件、浴光処理の必要性などを検討し、「アイユタカ」に適した管理法の確立が必要である。

そこで、本品種の植付けまでの種いも管理法（図1）の違いが収量に及ぼす影響を検討し、増収効果が高い種いも管理法を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 常温・無光区および冷蔵・浴光区の出芽期は常温・浴光区（慣行区）に比べ、やや遅れる（表1）。
2. 冷蔵・浴光区の株当たり茎数は慣行区に比べ減少するが、上いも数は増加する（表1）。
3. 収穫時期の茎葉の黄変程度は冷蔵・浴光区が慣行区に比べ、進んでいない（表1）。
4. 常温・無光区および冷蔵・浴光区の上いも重は慣行区に比べ増収する（表1、図2）。

[成果の活用と留意点]

1. 本試験は北海道産種いもを使用したものである。
2. 一期作産種いもを使用する春作マルチ栽培に適応できる。
3. 種いもを常温貯蔵する場合には、年次や貯蔵場所により貯蔵条件（温度）が異なるため、種いもが柔らかくなるなど老化が進行し、減収を招く場合がある。
4. 冷蔵貯蔵の種いもでも長期間（30日以上）の浴光処理では種いもの老化を招くので行わない。
5. アイユタカ栽培指針の作成資料とする。

[具体的データ]

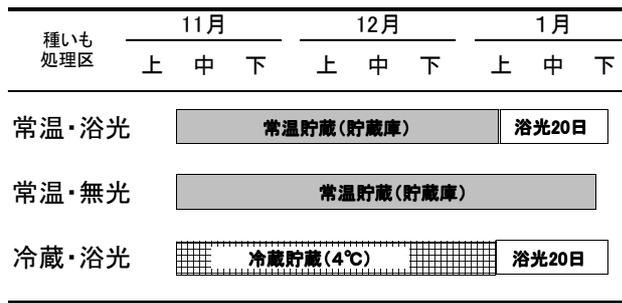


図1 各処理区の植え付けまでの管理方法

表1 貯蔵条件および浴光処理の有無の違いによる生育および収量性

貯蔵条件	浴光処理の有無	試験年次	出芽期 (月/日)	茎数 (本/株)	茎葉の 黄変 程度	上いも数 (個/株)	上いも重の 階級別重量割合				上いも重 (kg/a)	対標比 (%)	平均1 個重 (g)	
							3L 以上	2L	L	M				S
(慣行条件)														
常温	浴光	H17	3/9	5.2	IV~V	6.3	3	16	35	32	14	303	100	78
		H18	2/23	4.5	IV	6.3	1	20	31	39	8	325	100	87
		平均	3/2	4.9	IV	6.3	2	18	33	36	11	314	100	83
常温	無光	H17	3/11	6.3	IV	6.9	1	14	33	40	12	324	107	76
		H18	2/24	3.2	IV	7.6	4	15	34	36	11	374	115	81
		平均	3/3	4.7	IV	7.3	3	14	33	38	12	349	111	78
冷蔵	浴光	H17	3/12	4.3	IV~III	7.0	0	13	33	42	11	328	108	76
		H18	2/26	3.6	III	7.2	1	18	38	34	9	376	116	85
		平均	3/5	3.9	III~IV	7.1	1	16	36	38	10	352	112	81

注1) いもの階級は3L:220g以上、2L:220~140g、L:140~90g、M:90~50g、S:50~30g

2) 上いも重には、緑化いも、そうか病いもが含まれる。

3) 茎葉の熟性は、I:葉の黄変なし、II:下葉がわずかに黄変、III:葉の約1/3が黄変、IV:約2/3が黄変、V:株全体が黄変、VI:地上部が枯死(枯凋)

4) 耕種概要

- ① 植付日: H17:1/31、H18:1/25
- ② 収穫日: H17:5/12、H18:5/11
- ③ 栽植密度: 615株/a(畦間65cm×株間25cm)
- ④ 施肥量(kg/10a): H17:N:12.6, P₂O₅:11.2, K₂O:11.2
H18:N:18.9, P₂O₅:16.8, K₂O:16.8

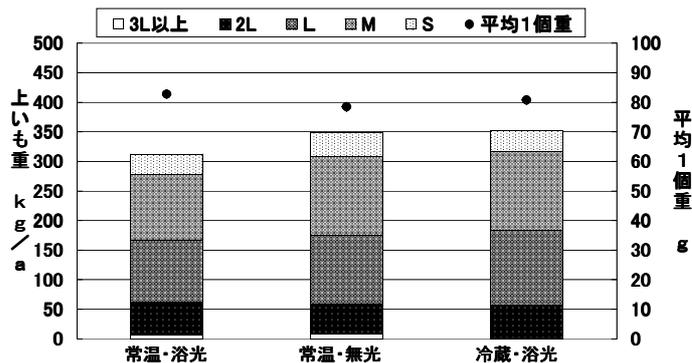


図2 種いもの管理法の違いと上いも重

[その他]

研究課題名: バレイショ「アイユタカ」等の安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2005~2007年度

研究担当者: 森一幸、田宮誠司、草原典夫